

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271300251		
法人名	有限会社 高梨ウェルビーイング		
事業所名	あつたかさん		
所在地	千葉県野田市上花輪588		
自己評価作成日	平成25年3月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アミュレット		
所在地	東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階		
訪問調査日	平成25年3月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節の移り変わりを感じながらゆったりとした時間の中でいきいきと暮らしていただける様、見守って行く事を基本姿勢に考えています。家族・地域の人達との交流を大切に、入居者の方1人1人の気持ちを大切に支援していきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム全体において「利用者を知ること」に力を入れて取り組んでおり、利用者の思いを大切にした支援に日々取り組んでいる。また、朝夕に体操を取り入れたり、外出活動を充実させるなど、身体機能低下防止にも前向きに取り組んでいる。地域との関係も良好であり、ホーム主催のイベントには地域の方にも声をかけ気軽に参加できるように取り組んでいるほか、近隣の幼稚園児との交流もあり、利用者も多くの方と交流する事が出来ている。ホームの介護方針である「敬う心と敬う言葉」を全職員間で共有し、利用者とも良好な関係が築かれており、笑顔の多いホームである事は当事業所の強みとして評価できる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の基づいた介護を目指し、スタッフ1人1人が現場で仕事をしている。	ホームの理念として「ご利用者の安心と尊厳のある生活を支援する」を掲げ、全職員が職員会議・ケアカンファレンスを通じ理念を振り返り、日々の支援に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方々と話し合いながら良い関係で暮らしています。楽しいイベント等にも参加してもらっています。	地域の高齢者を対象とした介護予防運動の取り組みがあるほか、近所の方が利用者に手芸を教えに見えたり、幼稚園の子どもたちが敬老の日に交流を図るために来訪する等、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるように工夫を図り、イベント等の開催に繋げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の福祉行政に参加し、その中で認知症の人の支援を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている		今年度は1月15日に開催し、町内会長、町内会代表、家族の出席を受け、地震・災害に関することをテーマに話し合い、備蓄品、スプリンクラー、火災報知器の設置について報告された。	運営推進会議開催のための体制を立て直し、2ヶ月に1回定期的に開催出来るよう取り組まれることに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の関係者・相談員とも協力していきたいと思っている。	市高齢者福祉課と日頃から運営に関し相談できる体制があるほか、市の主催する研修には参加をし、接点を深め、協力関係を築くことができるよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。危険な状態にある場合は、家族に相談している。	市が主催した「県高齢者権利擁護身体拘束廃止研修」に職員が参加し、職員会議・カンファレンスにて伝達研修を行い、管理者及び職員が身体拘束をしないケアを内容を正しく理解し、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ全員が注意するようにしている。		

あったかさん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な時は家族に説明をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い、退所時や認知症の進行状態などを理解してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来訪された時や、問題がある時、要望を聞き相談しながら納得のいく対応を行っている。	家族の方が来訪された際には、必ず直接意見を聴取する体制が整えられ、できる限りの要望を聴取し、その内容を申し送りノートに記載し職員間で共有している。表出された意見や要望等についてはカンファレンスで検討し、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員とのコミュニケーションを大切にしている。	全職員が気持ち良く働ける環境作りを目指し、日常的に相談できる体制を築き、日頃のコミュニケーションを大切にしている。これらの意見や提案は職員会議・カンファレンスにおいて取り上げ、検討し実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が不満なく終了してもらえる様、働きやすい環境・条件をとっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修を受け、レベルアップを心がけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国ネットワークの交流、市の事業者会議などでサービスの質の向上をさせている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より昼食への参加、家庭訪問、おためし入居と安心して入居して頂ける様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居決定後、ご家族の不安が解消できる様、よい関係ができる様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族・ケアマネジャー等の話しを伺い入居して頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と職員との関係は家族の様な形を取り、毎日を過ごしていきたいと思う。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人を支える為に、家族と職員は共働の形をとっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	人とのふれあいを多くし、いままでの状態を保てる様、支援している。	利用者の友人などの来訪による面会を受け入れ、利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、必要に応じては家族の方の協力も得て支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ゆったりと仲良く生活できる様気を配っている。		

あつたかさん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時も今まで通り支援し契約終了後もしばらくの間は連絡を取りフォローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや希望は記録、日誌等で把握し、家族との話し合い等で確認させて頂いている。	日頃の会話や表情から一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、また家族等の協力を仰ぎその把握に努めている。困難な場合は、家族に相談の上、利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の話しや今まで過ごしてきた環境、ご本人の話し等すべて把握し対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の健康状態、心理状態に気付く様に努め、少しの事でも見逃さない様職員全員で協力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族とも話し合いながら相談し計画を立てている。	利用者の現状及び課題をアセスメントにより収集し、担当者会議において家族からの意見を取り入れ総合的な意見を踏まえケアプランを作成している。	ケアプランにおいて支援方針を明確にしているが、短期、長期の目標期間を明確にし定期的に見直しを図り、アセスメントからプラン作成、モニタリングに至るまでの流れがより明確になることに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の健康状態、心理状態を細かく記録し、見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	24時間の生活を支える為、その都度考えて支援している。		

あったかさん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会・民生員・地区社協ボランティアの会などに協力してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医・ホームドクターとの関係の中で医療を受けられる様支援している。	提携先のかかりつけ医により月2回の往診を実施し、適切な医療を受けられる体制となっている。またこれまでのかかりつけ医の受診については、家族の方の協力体制により図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフは医師の指示や服薬などの細かい注意点を相談しながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、スタッフも本人やご家族に協力し病院関係者との関係づくりを行っている。(食事介助、洗濯等)		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んで	入居時に方針を説明し、重度化した場合再度ご家族と相談し、対応している。	重度化や終末期については、早い段階から家族等と話し合いを行い、理解が得られるように努め、終末期の際は、家族と方針を共有して主治医の意見を踏まえ、今後の支援方針を検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	感染症・急変時の対応等の講習を受け、スタッフが実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防署の訓練・月々の自主訓練を行っている。	消防署立会いの下で通報、避難訓練や地震による火災を想定した訓練等、年2回実施している。災害に備え、水、米、火鉢、炭、レインコート等備え、各居室には避難袋を用意している。	今後に向けては、災害後において、ご家族に利用者の安否をどのように報告していくか、具体的な連絡体制が構築されていく事に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格や生活を尊重しプライドを傷つけぬよう言葉かけ、接し方に注意している。	ホームの介護方針である「敬う心と敬う言葉」を職員間で共有し、利用者一人ひとりの人格を尊重し、日々の支援の中で不適切な対応が無いように職員間で意識を高く持ち日々支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の気持ちを大切にし、何が本当にしたいのか、実現できる様支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースを大切に楽しい毎日を送らせる様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみ、おしゃれ等には気を配っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニュー選び・買い物・調理・洗濯たたみ等、楽しみながら一緒に行っている。	利用者と職員と一緒に買い物に出かけ、利用者も関わりながら、調理準備や後片付けを進めている。食事中は職員も食卓を囲み、適宜会話を挟み楽しいひと時となるよう取り組んでいるほか、外食等も織り交ぜ、食事の楽しみにつなげている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー・食事・水分量等、個々にチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア・義歯のチェックは必ず行っている。		

あつたかさん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄パターンをチェックしトイレ誘導を促している。	「排泄チェック表」により個人ごとの排泄状況を記録し、パターンや習慣を把握し、定時の声かけや誘導により、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の量・やわらかさ・水分調整・体操・散歩等、個々に工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日行っているが、バイタルチェックをし、その日の体調に合わせて行っている。	入浴には職員が介助につき、1日置きに入浴（事前にバイタルチェック）することを勧めている。毎日の入浴も可能であり、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴できるように、個々に沿った支援を図っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝も行っている。（全員ではない）安眠できる様、注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時には注意を払い量の調整・医師への報告等、細かく支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	小さな事でも出きる事をお願いし、役割を決めている。楽しみや気分転換をしよう。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物に出かけたい時は時間の許すかぎり個人対応している。	施設周辺の散歩のほか、買い物、お花見、ぶどう狩り、近隣の工場見学、ショッピング等の外出計画を企画し、戸外に出かける事が出来るように支援している。普段はいけないような場所に関しては、家族の協力を得て実施している。	

あったかさん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している人もいるが使ってはいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい人にはその都度対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光と風が入ってくる空間作りをしている。外でも過ごせる様考えている。	玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、行事で取られた写真や装飾品の掲示、生花を置いて生活感や季節感を醸し出し、居心地よく過ごせるような工夫を図っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆様ホールで過ごされる事が多い。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好きなもの、必需品に囲まれた過ごし方をしている。	居室は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたタンス、家具、好みのものの持ち込みを可能とし、清掃や整理整頓により清潔感を保ち、利用者が居心地よく過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できること、できないことを見つけ自立した生活をして頂く。		